

温泉旅行へやって来た

幼馴染の二人

誰もいない混浴露天風呂の中で

こっそりセックス

結合し合う少年と少女の性器

一つになる二人

「凄く不思議ね、こんなところまで二人で来てるなんてっ！」

「そうだね。俺たち、すっごく成長したのかもな」

誰もいない露天風呂の湯船に浸かりながら、幼馴染の二人は話す。

二人の目に映るのは、遠くまで見下ろせる田舎町の田園風景。

ところどころに民家が点在している。

ここは二人が暮らす街から新幹線で2時間、バスで1時間の場所にある田舎温泉だ。

3週間前・・・。

「ええっと・・・ここは??リュウタ、ここがいいんじゃない？」

「近くはつまらないぜ?どこどこ??」

遠くまで二人で旅行へ行くことをかねてより計画していたリュウタとアユミは、旅行雑誌で良さそうは宿を見つけた。

「へえ・・・そうだね、ここなら良さそうだ。宿泊費も安いし」

「景色も良さそうじゃん!!いいよいいよ、ここにしよう!!」

そして行き先を決定してから3週間が経ち、早速楽しみにしていた温泉旅行へやってきたのだ。

今は夏休みでもなければゴールデンウィークでもない。

皆が学校へ行っているのをこっそりサボって、親にも告げずに内緒でやってきた二人。

だからこそ、いつになく二人の気持ちは弾んでいた。

「ザパアッ!!」

開放的な景色と露天風呂の湯船の心地良さに嬉しくなったリュウタは、浸かっていた湯船の端の石段の上に立ち上がり、そのまま両手を挙げて万歳のポーズを取ってみた。

「あ～気持ちいいなあ!!」

それを見たアユミはびっくりして目を逸らしてしまう。

「キャッ!!リュウタ!!そんなエッチなところ見せないでよ!!」

アユミが背を向けるのも頷ける。

リュウタは幼馴染のアユミの目の前で、ズル剥けの巨根に成長したばかりの大きなペニスをブランブランさせてみせたのだ。

まだ陰毛さえ生えていないリュウタの股間。

ペニスだけは大きい。キンタマもかなり大きい。

勃起していないのに、バナナのように大きい。

———体験版はここまでです———